


スイートピーの種子まき・チューリップを植える・ユリの植えこみ		
2005年10月	神無月(かんなづき)・神去月(かみさりつき)・時雨月(しぐれづき)・良月(りょうげつ)・小春(しょうしゆん)	●秋まき草花が育ち根を伸ばす時期です
<p>●山では、美しい紅葉が見られ、初雪の知らせも聞かれます。</p> <p>●そろそろ防寒の準備が必要になってきます。</p>		
庭木の作業	<p>・10月は、各地で植木市が開かれる時期ですが、木の植え替え時期としては 適当ではありません。常緑樹には少し遅く、落葉樹には早すぎるためです。ですが、ツツジ類や イヌツゲ、アベリアなどの株物は、厳寒期と成長期をのぞいて いつでも可能です。</p> <p>・成長が とまるので、刈り込みには ちょうどよい時期です。</p> <p>・バラは、花が終われば 切り戻しをして 二番枝をださせるようにします。</p>	
草花の作業	<p>・春咲き球根の植えつけ</p> <p>・夏咲き球根を掘りあげて、保管する。</p>	

今月の誕生花	キンモクセイ、コスモス、マリーゴールド、シオン	
今月の花	キク	
	花言葉/高貴、高尚、高潔	
	仏花としてのイメージが強いですが、スプレー菊や、紫色の花をたくさんつけるダンギクなどで 可愛いアレンジができます。	
	<p>原産地は中国。キク科キク属の多年草。草丈は20cm～1mくらい。開花時期は9月～11月。最盛期は9～10月。葉の形状は有柄、互生。花色は 赤、ピンク、黄、オレンジ、白、複色、底白など。</p> <p>日本では早くから 観賞用とされてきましたが、最初は 薬用植物として伝わってきました。「菊」という漢字に キクという以外の読み方がないのは、キクが薬用の植物として渡来したとき、薬の専門用語として そう呼んでいたのが、そのまま定着したからだといわれています。</p> <p>キクは、短日性で1日24時間のうち14時間が暗闇でないと 開花しないそうです。もし家のキクが咲かなくなったら、隣のネオンや光源をさえぎる工夫をしてみてください。</p>	

スイートピーの種子まき

- 香りのよい赤や、ピンク、紫などの花を咲かせるスイートピーは、よく知られた花ですが、意外とつくる人が少ないようです。高級な花のイメージがあるのかもしれませんが、育ててみると 意外と簡単で 丈夫な花です。
- 早咲きと、遅咲き(春咲き)がありますが、普通の庭でつくるには、春咲きがいいようで5月に花が咲きます。

●地ごしらえ

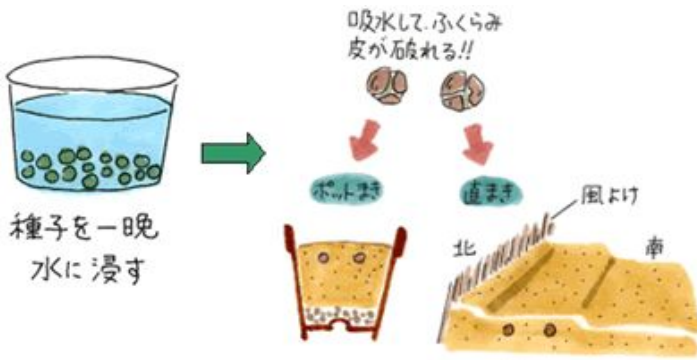
マメ類は、一般に移植をきらい性質を持つので、「花壇に直まき」とするか、「ポットまき」にしてあとで土を崩さないように抜いて植えるようにします。

まき時期は、他の秋まきの草花より少し遅らせて10月中旬がよく、それより1～2週間前に、地ごしらえをすませておきます。

スイートピーは、弱アルカリ性を好み、酸性土では育ちにくい性質です。日本の庭の土は、だいたい酸性土なので、1㎡に200gくらいの消石灰をまき、土によくまぜておきましょう。

マメの仲間なので、窒素質の肥料はあまり与えないほうがいいでしょう。初めて草花を植える場所では、堆肥を適量あたえるぐらいです。

●種子まき

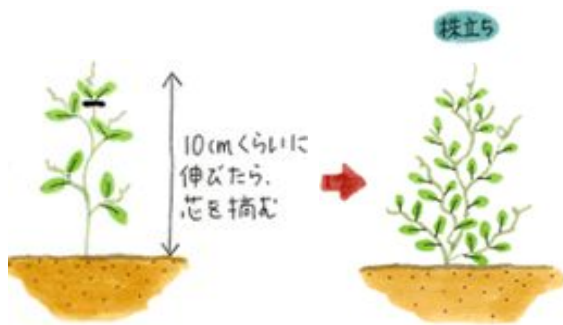


花壇に直まきの場合は、1箇所に2～3粒とし、深さ2cmくらいにまいて土を上から押さえつけておきます。まき場所の間隔は、40cmくらいとし、花壇の後方ならば直線にならべるとか、中心ならば円形に配するとよいでしょう。

花壇にまだ前の花が残っていて、直まきができないときは、5cmくらいのポットに2粒くらいまいて、あとで土を崩さないように抜き出して植えつけます。

●芽が出たら・・・

10日ほどで芽がでますが、寒さがくるまでに翌春伸びる芽を地際の部分にたくさんつけておくために、10cmくらい伸びたら、芽先をかるく摘み取ります。

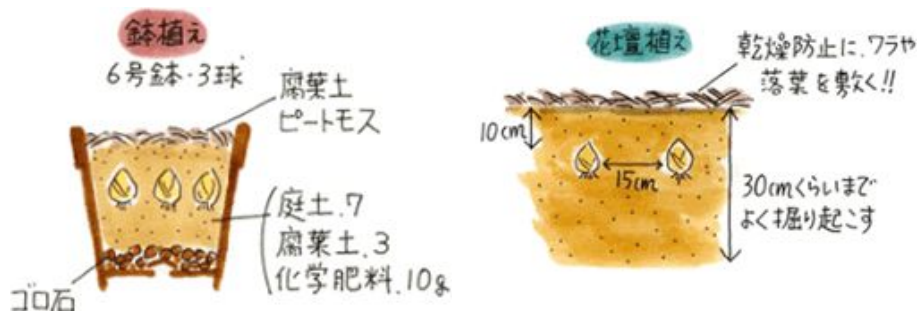


これをしておくと、春先の株たちがよく、花がたくさんつきます。

●3月下旬になるまでまったく伸びませんが、秋のうちに十分根を張っていれば、心配はありません。やがて伸びだしてくるので、必ず支柱を立てて待ちましょう。

チューリップを植える

春の庭でひときわ華やかで、しかも、秋に球根を植えておけば、誰でも見事な花をさかせることができます。花壇でもプランターでも、同時期に咲く2~3種類をまとめて咲かせたほうが、美しく見えます。



花がさくまでは、乾燥したときに、水をたっぷり与えましょう。芽は でていなくても、地中に十分 根を張らせておくことが大切です。水がないと 球根の中にある 花芽が ひからびて だめになることがあるからです。

ユリの植えこみ

● 植える場所

ヤマユリや、カノコユリなど野生種のユリは、庭の植え込みの間に植えておいて、時期になると木の間から花がのぞくようにするとよいでしょう。根元が 半日陰になる場所が適するからです。テッポウユリ、スカシユリ、改良種のユリは、日当たりがよくよく肥えた場所が適地です。

● 植えつけの時期



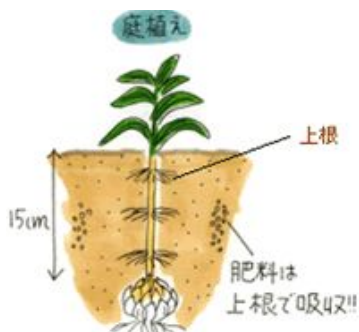
ユリは 秋になると芽が枯れ、休眠にはいりますが、地中では、鱗茎(りんけい)とよばれる球根が、10月頃になるともう新しい芽を出しはじめます。ですから、この時期に植えるのが一番よいのです。チューリップやスイセンのように、乾燥させても大丈夫なものとは違い、ユリの球根は 乾燥させるとだめになってしまうので、購入するときはしなびていないものを選びましょう。



球根は乾燥しないよう包装して売られています

● 植えかた

地表面が 乾燥しないように、腐葉土や 刈り芝を敷いてやります。



深めによく耕し、全面に堆肥・肥料をまいて、土によく混ぜ込んでおきます。

植木鉢は なるべく大型の深いものを使います。

